深谷城跡

深谷城は、関東管領山内上杉氏の流れを汲む深谷上杉氏が、古河公方と対抗するために築いた城です。『鎌倉大草紙』によると、深谷上杉氏５代目の上杉房憲によって、康正２年（1456年）に築かれたとされます。その形が木瓜の花、或いは実の断面に似ており、別名「木瓜城」と称されたとも伝えられます。

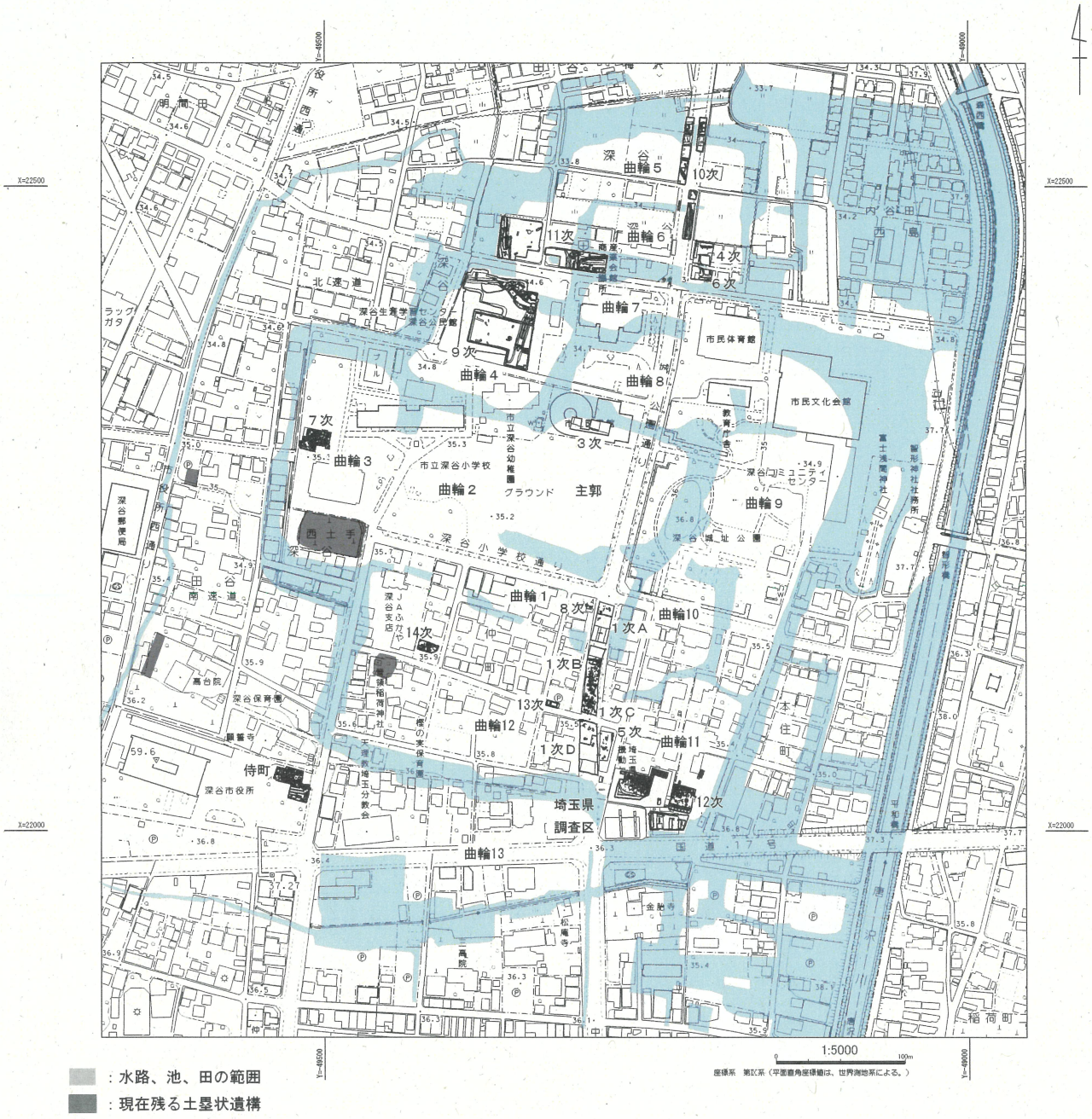
平城で、堀や土塁で各曲輪を区切り、更に周辺の低湿地を利用して防備を固めていました。発掘調査では、堀や土塁、井戸、建物跡などが確認されています。また、古字名の「越中曲輪」周辺では、障子堀という特殊な構造の堀が多く確認されています。山内上杉氏が没落後、深谷上杉氏は北武蔵の一勢力として、北条、上杉、武田といった強国のはざ間で、度々主家を替えながら存続していきます。

豊臣秀吉の小田原征伐による深谷城開城後は、徳川家康の家臣松平康直が一万石で城主となります。1593年には康直が没し家康の子松千代が、1599年には松千代が没し家康の子松平忠輝、1610年には松平忠重、1622年には酒井忠勝というように城主が目まぐるしく代わります。1627年に酒井忠勝が川越に移った後、1634年に廃城となりました。

周辺には、高台院や智形神社を始め、深谷上杉氏ゆかりの寺社や城館跡が多数あります。

第9次調査区全景

第9次調査区の掘



第11次調査区障子堀①

第11次調査区障子堀②

第10次調査区障子堀

第9次調査区で確認された抗列

第11次調査区井戸

第9次調査区遺物出土状況